マルタ共和国における家庭科教育の現状

表　　真　美
（教育学科）

1．緒言

⑴　マルタ共和国について

マルタ共和国は，イタリアの南方，地中海中央に浮かぶ主に２つの島からなる（**図１**）。淡路島の半分ほどの広さの国土に，約43万人（2016年）が暮らすカトリックの国である。1800年にネルソン提督ひきいる英国艦隊がマルタを占領し，1814年のパリ条約により英国領となる。1964年に英連邦の中で独立し，主権国家となる。1979年には180年間駐屯していた英国軍がマルタを離れた。マルタ語，および英語が公用語である。天然資源に乏しく，市場規模も小さいため，主要な物資を輸入に依存している。貿易収支の赤字は主要産業である観光業からの収入で補填するというパターンを維持しており，経常収支の赤字幅は比較的小さい。年間約190万人の観光客が訪れる観光立国である。また，海外投資の誘致，オフショア・ビジネス[註1)]の活性化，学術機関の誘致やメディカル・ツーリズムを含む観光業の更なる発展，大型インフラ開発等に積極的に取り組んでいる[1)]。

⑵　マルタ共和国おける教育制度の概要

３～５歳に就学前教育，義務教育は，５～11歳（６年間）の小学校，11～16歳（５年間）の中等教育学校の11年間であり，その後，後期中等教育は，マルタで唯一の総合大学であるマルタ大学に進むためのジュニアカレッジ，芸術・科学・工学大学に進むためのジュニアカレッジ，および職業教育の３コースに分かれる（**図２**）[2)]。

図１　マルタ共和国（資料：外務省ウェブサイト）

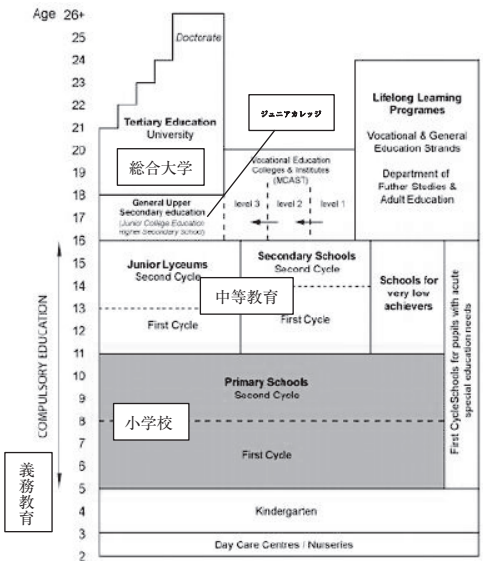

図２　マルタの学校制系統図（資料：R. G. Sultana, Malta's Education System）

⑶　本研究の目的

本報告の目的は，マルタ共和国における主に初等・前期中等教育の家庭科教育の現状を明らかにすることである。

我が国の家庭科は，小・中・高等学校における必修教科であり，世界的に見ても先進的である。しかし，授業時間数の不足により，調理実習や被服製作を充分に行うことが出来ない[3)4)]，また，現行の小・中・高等学校家庭科教員は，各領域に対する指導分野の「得手」「不得手」が著しいなどの課題も報告されている[5)]。

我が国におけるマルタ共和国の教育に関する研究蓄積は極めて少なく，家庭科教育については紹介されたことがない。しかしながら，国際家政学会（IFHE）には会員が複数名参加しており，その多くは家庭科教員養成に携わっている。2016年のIFHEアニュアルミーティングはマルタ共和国の首都バレッタで開催された。2017年に東京で開催された日本家政学会アジア地区会（ARAHE）にもマルタからの研究者が出席した。家政学・家庭科教育に携わる研究者や教師は，我が国と比較して極めて少人数であるが，学会では毎回，マルタからの参加者が興味深い研究発表や実践報告を行っており，学会への役員も輩出している。人口の少ない小国ながら，熱心に学会活動を行うIFHE会員をもつ国の家庭科教育について明らかにすることは，我が国の家庭科にも何らかの示唆が期待できると考える。

2．研究方法

本報告は主に，①マルタ共和国教育労働省資料，②マルタ大学家庭科教員養成課程教員への聞き取り調査，③マルタ国内の教育センター，中等教育学校，ジュニアカレッジにおける授業参観，および各機関，学校における家庭科教師への聞き取り調査の３つを元に研究を行った。各々の詳細を以下に示す。

⑴　マルタ共和国教育労働省資料

マルタにおける教育目標，内容，家庭科のカリキュラムスタンダード，家庭科の教師・学校用ガイドなどは，マルタ教育労働省ウェブサイトより入手した[6)]。

⑵　家庭科教員養成課程教員への聞き取り調査

2017年３月８日，および９日にマルタ大学教授のS.P.氏，K.M.氏およびL.P.氏に，マルタ共和国の家庭科のカリキュラムの特徴，学校における教育・教員養成の現状などについて聞き取り調査を行った。

⑶　授業見学および家庭科教師への聞き取り調査

家庭科セミナーセンター，中等教育学校，およびジュニアカレッジを訪問し，家庭科の授業見学を行った。今回訪問した学校の選定，授業見学の依頼は，S.P.氏が行った。

１）家庭科セミナーセンターへの訪問

2017年３月８日午前にマルタ共和国家庭科セミナーセンターを訪問した。当センターは，マルタ大学や首都バレッタとも近距離のBirkirkaraに位置する小学校の最上階のフロアに設けられていた。

当センターのスタッフは所長１名と６名の家庭科教師，２名の職員であった。他の教科も同様のセンターを持つとのことであった。

２）前期中等教育学校への訪問

2017年３月８日午後にマルタ島の中央内陸部Quormiに位置する中等教育学校I.C.H.中等教育学校を訪問した。当校は，１学年約250名，全校生徒約1250名の規模の学校である。５名の家庭科教師とテキスタイル教師１名がおり，３室の家庭科実習室があった。必修家庭科，選択家庭科の授業を見学し，２名の家庭科教師に聞き取り調査を行った。

３）後期中等教育学校への訪問

2017年３月９日午前にマルタ島，マルタ大学に近いL-Imsidaに位置するジュニアカレッジを訪問した。当校は，1995年に設立された，総合大学であるマルタ大学への入学資格（Matriculation Certificate）の準備を行う，将来の大学生向けに特別に設計された２年間のコースをもつ後期中等学校である。

家庭科専攻の授業を短時間見学し，当教師に聞き取り調査を行った。

大学教員，および家庭科教師への聞き取り調

査の調査内容はマルタ共和国の家庭科教育に関するもので，個人的な情報は全く含まれていない。なお，対象者には調査結果の公表についての許可を要請し，書面での承諾を得た。

3．研究結果

⑴　マルタ共和国における家庭科の位置づけ

1）初等教育

小学校の必修教科は，「英語」「マルタ語」「数学」「宗教」「社会科学」「芸術」「演劇」「倫理」「外国語活動（FLAP）[註2)]」「音楽」「体育」「科学」「個人・社会およびキャリア開発（PSCD）[註3)]」「技術」の15教科であった[7)]。

小学校には，家庭科は必修教科として位置づけられていなかった。しかし，家庭科セミナーセンターにおいて，希望する学校の児童を対象として，センターでの授業や出張授業が行われていた。センターによる家庭科授業については後述のとおりである。

2）前期中等教育

前期中等教育に設置された必修教科は「マルタ語」「英語」「数学」「宗教／倫理」「社会科学」「総合科学」「物理」「歴史」「地理」「ICT」「体育，および健康教育（PHE）」「表現芸術」「PSCD」「第２外国語」の14教科であった（**表１**）[8)]。PHE（Physical and Health Education）の中に家庭科（Home economics）が含まれていた。**表１**の付記にあるように，７，８年生では，家庭科とデザイン＆テクノロジー[註4)]に各々週１単位時間が，また，９，10，11年生では家庭科に週１単位時間が充当されていた。マルタ大学教授への聞き取り調査によると，実際には，半年間，週２時間（40分×２）の家庭科の授業が行われている，とのことであった。

また，９，10，11年生に提供されている選択教科の中に「被服学（Textile Studies）」が含まれていた。選択教科は他に「フランス語」「ドイツ語」「イタリア語」「スペイン語」「ロシア語」「アラビア語」「化学」「生物学」「芸術」「会計」「農業経済」「ビジネス研究」「デザイン＆テクノロジー」「体育」「地理」「グラフィカルコミュニケーション」「家庭科」「音楽」「歴史」「ヨーロッパ研究」「コンピュータ研究」「社会学」「エンジニアリング技術」「ホスピタリティ」「情報技術」「ヘルス＆ソーシャルケア」「農業ビジネス」の計28教科であった[9)]。

表１　中等教育における週40時間のカリキュラム

教科／学年	7	8	9	10	11
マルタ語	5	5	3	4	4
英語	6	6	6	5	5
数学,	5	5	5	5	5
宗教／倫理	2	2	2	2	2
社会科学	1	1	1	1	1
統合科学	4	4	—	—	—
物理	—	—	4	4	4
歴史	2	2	1	1	1
地理	1	1	1	1	1
ICT	1	1	1	1	1
PHE	5 *	5 *	3 **	3 **	3 **
表現芸術	2	2	—	—	—
PSCD	2	2	2	2	2
第２外国語	4	4	3	3	3
選択科目１	—	—	4	4	4
選択科目２	—	—	4	4	4
	40	40	40	40	40

＊　「体育」３時間，「家庭科／デザイン＆テクノロジー」２時間
＊＊　「体育」２時間，「家庭科」１時間
Ministry of Education and Emplyment “Coutry Report” 2014をより筆者作成

マルタ大学教授への聞き取り調査によると，選択の家庭科は週２回，２時間の授業が行われている，とのことであった。

3）後期中等教育（ジュニアカレッジ）

大学進学資格を取得するジュニアカレッジには，語学系10科目，社会科学系10科目，自然科学系６科目，芸術・技術系９科目の４科目群，全33の選択科目が用意されていた（**表２**）[10)]。芸術・技術系科目のなかに，家庭科が「家庭科と人間生態学（Home Economics & Human

表２　ジュニアカレッジにおける選択科目

グループ１	グループ２	グループ３	グループ４
アラビア語	会計	応用数学（力学）	アート
英語	古典研究	生物学	コンピューティング
フランス語	経済学	化学	エンジニアリング
ドイツ語	地理	環境科学	グラフィカルコミュニケーション
ギリシャ語	歴史	物理	
イタリア語	マーケティング	数学	**家庭科と人間生態学**
ラテン語	哲学		情報技術
マルタ語	心理学		音楽
ロシア語	宗教研究		体育
スペイン語	社会学		演劇とパフォーマンス

マルタ教育労働省ウェブサイトより筆者作成

Ecology）」として位置づけられていた。

４）大学

マルタ大学では，教育学部の「健康体育教育，消費者科学科（The Department of Health, Physical Education and Consumer Studies of the Faculty of Education）」に家庭科教員養成課程が設置されていた。

⑵　前期中等教育における家庭科カリキュラムの目標，内容

１）家庭科のビジョンと目標

教育労働省が定めたカリキュラムスタンダード（NCF: National Curriculum Framework）の家庭科版には，冒頭に家庭科のビジョンと目標が記されていた（**表３**）。マルタ共和国の家庭科は「食品，栄養と健康」に主軸が置かれていた。

２）家庭科の内容

家庭科のカリキュラムスタンダードには，「食品，栄養と健康」の構成要素として，「食品と栄養」「金銭リテラシー」「安全な環境」の３つが挙げられていた（**図３**）。また，カリキュラムは，第７，８学年をレベル１，第９，10学年をレベル２，第11学年をレベル３と，３つの

表３　中等教育における家庭科のビジョンと目標

家庭科のビジョン
家庭科のビジョンは，健康的能力を身に付けることより，健康的で環境に配慮する市民を養成することである。 家庭科に含まれる健康的なライフスタイルのテーマは，教育への統合的なアプローチを提供する。そして，学習者が，情報に基づいて責任をもって行動を選択し，自分の行動が自分自身，他の人々，そして社会全体へ及ぼす影響を考慮することが出来るような知識，技能，能力を伸ばすことが目標である。食事と栄養の健全な原則に基づいた食事準備の機会は，学習者に健康を改善するための行動を取る基本的なライフスキルを提供する。
家庭科の目標
家庭科の目標はこのビジョンに基づいており，すべての学習者が最大の可能性を達成するように導くことが期待されている。 １．個人の健康，家族の健康，社会全体の健康に影響を与える問題について，情報に基づいた意思決定を行えるようにする。 ２．健康的な習慣とエネルギーバランスを促進する栄養価の高い食生活を選択するために必要な知識，技能，能力を養う。 ３．健康的な食品を調理するためのに適切なスキルを実践的に身につける。 ４．慎重で有能な消費者になる能力を高め，効率的かつ効果的かつ持続可能な方法で資源を管理する。 ５．さまざまな場面で安全な環境を維持するための勤勉さを示す。 ６．健康擁護者になる能力を強化する。

“Home Economics（HE）within the Health & Physical Education（NCF）2014”より筆者作成

表 4　家庭科の各レベル・領域の内容

	レベル 1	レベル 2	レベル 3
食品と栄養	・学習者は，食品，栄養と健康の知識について，新しい食生活ガイドラインと基礎的な食品群に関連して，食品と飲料の選択に含まれる要因を識別できる。 ・学習者は，栄養がありおいしく魅力的な食品を，価格と時間を節約する方法で準備するシンプルな調理技術を習得するため，食品や飲料の経験を豊富にする。 ・学習者は，授業における食品のコスト計算の繰り返しの実践を通して，食品の計画と購入の際に予算編成を行う金銭リテラシーの能力を獲得する。	・学習者は，栄養要件に影響を及ぼす要因を特定し，主要な栄養素を挙げ，健康に有益な食習慣を検証するための食物，栄養，健康に関する知識を身に付ける， ・学習者は，より広範な技能と技術を自主的に使うことが出来る。 ・学習者は，より広範な技能と技術を自主的に使うことが出来る。 ・学習者は，食物摂取，身体活動および代謝に関するエネルギーバランスを理解する。 ・学習者は，食品調理に関する適切で安全な予防方法を応用する。	・学習者は，文化，健康状態，食環境などの要因が個人的食習慣や授乳に関する生活習慣に及ぼす影響，健康的なライフスタイルを導くための個人的障壁の評価を探究する。 ・学習者は，危険因子を分析し，低体重，肥満および食物の流行を含む食行動の影響を調査する。 ・学習者は，既存のレシピを修正し，新しいレシピを作成するために学んだ概念を応用して栄養価を向上させ，食品調理技術をレビューしながら，持続可能性の問題を十分考慮する。
金銭リテラシー	・学習者は，知識習得の結果，環境の探求を通して安全問題の重要性を理解し，学習して得た安全に設備を利用する技能を応用する。	・学習者は，消費者情報の最良の資源を特定するとともに，消費者の権利と責任を正しく管理する金銭リテラシーの能力を獲得する。 ・学習者は，日常的に衝動的購入に頼っている実例を示し，改善策を示すことが期待されている。	・金銭リテラシーの能力は，学習者に債務管理の一環として潜在的なシナリオに効果的な債務手続きを応用することを要求する。 ・学習者は，利用可能な銀行サービスを選択し，商品やサービスの様々な支払い方法を評価することも期待されている。
安全な環境	・学習者は，応急処置の重要性についての基本的な理解を獲得する。	・基本的な応急処置の能力を習得するとともに，一般的な安全問題と日常生活で遭遇する潜在的なリスクを探究する。	・学習者は，食品を取り扱う際に使用される安全表示と基準を解釈するための知識と理解を獲得する。

“Home Economics（HE）within the Health & Physical Education（NCF）2014”より筆者作成

図 3　家庭科の構成要素（2014年）
（資料：“Hone Economics within the Health and physical Education（NCF）2014”）

レベルに分けて，概要を示していた（**表 4**）。

さらに詳細に，「食品と栄養」「金銭リテラシー」「安全な環境」の 3 構成要素の内容を，レベルごとに示していた[11]。

なお，マルタの教育カリキュラムは現在改組中であり，2018年 9 月初旬に新カリキュラムが発表された。それによると，構成要素は，「食品，栄養と健康」「実践的介入」「家庭と家族のウェルビーイング」「安全とリスクの評価」「金銭リテラシーと消費者意識」「持続可能な資源管理」の 6 つに変更されていた[12]。

⑶　初等・中等教育における家庭科の授業実践

１）家庭科セミナーセンター

当センターは，「食物」「消費者」「金融」「健康」「環境」の５つの事項に関する能力を育むことを使命としている。銀行や農業組合，食品メーカーなど複数の民間機関からの金銭や教材などの提供を受けていた[13]。

複数の授業プログラムが用意されており（**表５**），学校の判断で，担任の先生が子どもたちを連れてセンターを訪れたり，センターの家庭科教師が学校に行って出張授業をしていた。子どもだけでなく，保護者向けのプログラムもあった。

訪問当日は，マルタ島 Bahrija にある小学校から４年生と５年生の２クラスの子どもたちが授業を受けに来ていた。同時並行で，野菜と果物の授業（４年生），お金の授業（５年生）を行っていた（**写真１**）。家庭科教師への聞き取り調査によると，センターに来て受ける授業は，通常９：30～12：30の時間帯に１単位時間（45分）を３コマ行う，当日は２クラスだったが，６つの教室があり同時に授業が可能である，とのことであった。

表５　提供する授業のタイトルと概要

	授業名	学習概要
初等段階	毎日今日の５を食べます！	野菜・果物
	礼儀に気を付けよう	食事のマナー
	ミルクパワー	牛乳
	良いスタートのための健康的な朝食	朝食
	クールなランチボックス	お弁当
	虹を味わおう	野菜・果物の消費
	お金のこと	消費者教育
	健康はあなたが生みだす	保護者向けプログラム
中等段階	それはあなたのすべて	環境・健康教育
	栄養の警鐘	健康的食生活
	賢く節約する	生活設計
	私たちの食べ物のエイリアン	食品衛生
	スマートスナック	菓子類の選択
	栄養 CSI	食品の消費

家庭科セミナーセンターウェブサイトより筆者作成

お金の授業は20名定員であるが，訪問当日は小規模校からの参加だったため，１クラス13名であった。英語のビデオを見ながら，教師はマルタ語で授業をしていた。実際の紙幣と偽札を手に取って比較したり，使用済みの廃棄処分となった紙幣はシュレッダーして馬の飼育に使われていることなどを，実物教材を用いて学んでいた。センターには，銀行に提供された実物と同様の模擬銀行が設置されていた。お金の引き出し，預け入れ，借用など，どの窓口に行き，どのような手続きが必要かを，児童・生徒が学ぶ機会も設けられていた。

もう一方のクラス12名は，４名のグループに分かれ，スライドを用いて，果物，野菜の名前を考え，正解を競い合うゲームを行っていた。例えば，「オレンジ色，皮がむける，房にわかれている，名前は楽器に似ている→マンダリン」「緑，木に似ている，蒸して料理にする→ブロッコリー」などのクイズが出されており，児童たちは楽しそうにゲームに参加していた。

児童，生徒だけでなく，祖父母を含む保護者が健康的な食生活について学ぶ講座もあり，専用の教室が設けられていた。家庭科教師への聞き取り調査によると，この授業も学校を通して募集をし，学校単位で保護者が訪れる，具体的には，繊維の多い，オーツ麦，豆の調理法や，シナモンなどの香辛料を用いて砂糖を減らす方法を学ぶ，とのことであった。

授業を受けた児童・生徒や保護者が，学んだことを学校，家庭で実践して，マルタに広めることを目指している，とのことであった。

２）前期中等教育学校

訪問した前期中等教育学校では，７年生対象の必修家庭科と，高学年を対象とした選択家庭科の授業を見学した。

家庭科実習室は広く，生徒が授業を受けるた

めのモニター，机といすのスペースが設けられていた。

見学した必修家庭科の授業は，特別に支援が必要な５名の生徒を対象とした，台所の衛生と安全についての授業であった。まず，アニメ映画を視聴し，家庭科教師により，調理の危険性

(1)　紙幣の観察　　(2)　果物，野菜クイズ

写真１　家庭科セミナーセンターでの授業の様子（2017年３月８日筆者撮影）

(1)　アニメによる調理の危険性についての学習　　(2)　手洗いの実習

写真２　前期中等教育学校の授業の様子（2017年３月８日筆者撮影）

(1)　実習スペース　　(2)　授業の様子

写真３　ジュニアカレッジの家庭科講義室と授業の様子（2017年３月９日筆者撮影）

について包丁，電気，熱源など，台所には危険な装置がたくさんあることが説明された（主にマルタ語，時々英語）。次に，汚れや菌に見立てた油とコショーを手に塗り，石鹸で洗い流す実習を行った（**写真２**）。

授業は，机の前に座らせての説明，隣の実習台を囲んだ立ちながらの説明を数分ごとに繰り返し，生徒が集中力を持続できるよう，工夫がなされていた。一人の生徒はあちこち歩き回ったり，実習室を出て行ったりしていたが，残りの４名は，熱心に授業に参加していた。特別に支援が必要な子どもたちには，一般の生徒向けのものを元に変更された特別なテキスト，ワークブックが用意されていた。

選択の家庭科は，６名の９，10年生を対象としたクレジットカード，保険についての授業だった。授業は英語で行われていた。

まず，クレジットカードについての短いビデオを観た後，クレジットカードの利点，欠点について意見が出された。次に，自動車事故を起こして新しい車を購入したという想定で，保険加入がある場合とない場合の支払いにかかる費用を実際に計算，比較が行われた。また，銀行ローンについてのパンフレットが各自に用意され，グループワーク（３名×２）がなされた。最後に，携帯電話での支払いについてのビデオ視聴，その後宿題の説明が行われた。

家庭科教師への聞き取り調査によると，授業に用いたビデオは，担当した教師がインターネットなどを利用して準備した，とのことであった。選択の家庭科は，４グループ，約100名が履修している，調理実習は，必修家庭科は年間３回，選択家庭科は年間４，５回行う，とのことであった。

３）後期中等教育学校（ジュニアカレッジ）

ジュニアカレッジでは，家庭科講義室の見学と，短時間の授業の見学を行った。

ジュニアカレッジの家庭科講義室は，調理実習スペースと講義スペースを併せ持つ広い部屋だった。入り口を付近の講義スペースには，教卓，大型モニター，ホワイトボードや本棚と，50席以上の机と椅子が設置されていた。奥の実習スペースには，広々とした調理台とIHとガスのコンロ各２台，５つの流し台のほか，冷蔵庫やオーブン，電子レンジ，洗濯器などが備え付けられていた。

15名ほどの２年生の生徒が授業を受けていた。女子生徒が多数だったが，男子生徒も複数見られた（**写真３**）。

４．まとめと今後の課題

⑴　本研究の要約

マルタ共和国教育労働省の資料，および2017年３月に実施した訪問調査を元に，マルタ共和国における家庭科教育の現状について明らかにした。マルタ共和国の家庭科教員養成に携わる教員は，家庭科教育・家政学の国際学会であるIFHEにおいて，熱心に研究発表や学会活動を行っているが，マルタ共和国の家庭科教育が我が国に紹介されたことなく，我が国への示唆が得られると考えられたためである。得られた知見は以下の３点にまとめることが出来る。

①マルタ共和国の小学校には，必修教科として家庭科は設置されていない。しかし，「食物」「消費者」「金融」「健康」「環境」の５つの事項に関する能力を育むことを使命とした，家庭科セミナーセンターが設けられていた。当センターでは，民間機関と連携を密にした，小学生・中等教育学校生とその保護者を対象とした出張授業や，センター内で行われる授業プログラムが提供されていた。訪問時には，クイズとゲームを組み合わせてグループ活動を行う食教育や，実際の紙幣を使った金銭教育のアクティブラーニングを取り入れた授業が実践されていた。

②５年制の前期中等教育学校においては，必修教科である「健康教育」の中に家庭科が設置されていた。「健康教育」は「体育」と「家庭科（Home Economics）」が組み合わされた教科であった。家庭科は「食品と栄養」「金銭リテラシー」「安全な環境」の３領域から構成されていた。また，家庭科は，選択教科としても教えられていた。訪問した前期中等教育学校では，特別に支援が必要な生徒を対象とした工夫

された調理実習の授業，日常生活に起こる様々な金銭的な課題をシミュレーションして解決しながら学ぶ金銭教育の授業が実践されていた。

③大学進学のために入学しなければならない後期中等教育学校（ジュニアカレッジ）には，芸術，技術系科目群の１つとして家庭科（Home Economics）が位置づけられていた。ジュニアカレッジの家庭科講義室は，調理実習スペースと講義スペースを併せ持ち，大型モニターを始めとする様々な設備をもつ大きな部屋だった。家庭科を選択する生徒は，女子生徒が多数だったが，男子生徒も複数見られた。

国で唯一のマルタ大学では，教育学部「健康体育教育，消費者科学科」に家庭科教員養成課程が設置されていた。

⑵　我が国家庭科教育への示唆

マルタ共和国では，小学校には教科としての家庭科が設置されておらず，後期中等教育においては選択教科であった。我が国の家庭科と比較すると，決して充実しているとは言えない。では，日本の家庭科教育はマルタの家庭科からどのような示唆が得られるのか。

セミナーセンターでの授業は充実していたが，我が国で実施しようとすると，地理的に，各教育委員会の設置が必要であり，マルタ共和国のような教科ごとのきめ細かい指導は望めない。しかし，今日では我が国でも発展してきた民間機関との協力による授業構築，保護者を巻き込んだ教育活動は学ぶところがあるだろう。

「生きる力」としての食教育は特別な支援が必要な子どもたちこそ，教育の必要性が高いと考えられる。前期中等教育学校では，発達障害の生徒を対象とした授業が詳細に計画され，実施されていた。

また，教師自身が準備した教材を用いて，大変熱心に授業を行い，生徒たちも真剣に取り組んでいた。見学したすべての授業では，アクティブラーニングが取り入れられていた。

さらに，「食教育」とともに「金銭教育」を重視する国の要請を反映する教育の在り方も示唆的であった。

⑶　今後の課題

今後は，今日のマルタ共和国の中等教育において家庭科が位置づけられている歴史的背景について，明らかにしたい。また，現在マルタの中等教育は改組途中であり，改組後の家庭科教育の実情についても，研究を進めたい。

謝辞

本報告は京都女子大学在外研究員制度により行った訪問調査の一部である。調査にご協力いただいたマルタ大学，家庭科セミナーセンター，中等教育学校，ジュニアカレッジの方々に感謝します。

註１）ここでのオフショア・ビジネスとは，一般に法人税などの安い国に拠点を置き，経費節減をおこなうこと。
註２）外国語活動 FLAP：Foreign Language Awareness Programme
註３）個人・社会およびキャリア開発 PSCD：personal, social, and career development
註４）実際の標記は DT（RM & E）：デザイン＆テクノロジー（DT）（耐性材料とエレクトロニクス［RM & E］）

参考文献

１）外務省ウェブサイト「マルタ共和国（Republic of Malta）基礎データ」https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malta/data.html#section 1（2018年８月31日入手）
２）R. G. Sultana “Malta’s Education System” https://www.um.edu.mt/__data/assets/pdf_file/0004/171391/Malta_Ed-System.pdf（2018年８月31日入手）
３）高崎禎子，斎藤美重子，河野公子（2012）「調理実習の実態と家庭科担当教員の意識調査結果からみる課題」『日本家庭科教育学会誌』55，172－182
４）木村美智子（2014）「家庭科教員養成カリキュラムにおける被服構成学実習の実態と課題」『茨城大学教育学部紀要（教育総合）増刊号』219－227
５）日本学術会議・生活科学委員会家政学分科会．家庭科教育の現状調査（2014）「家庭科及び家庭科教員養成に関する調査―これからのくらしに家政学が果たすべき役割を考えるために―（文書番号 SCJ 第22期35―26081―22560400―014）」16－21
６）マルタ共和国教育労働省ウェブサイト

https://education.gov.mt/en/Pages/educ.aspx
（2018年８月31日入手）
７）マルタ共和国学習・評価プログラム局ウェブサイト
https://curriculum.gov.mt/en/Curriculum/Year-1-to-6/Pages/default.aspx
（2018年８月31日入手）
８）Ministry of Education and Employment, 2014, Country Report MALTA Language in Education profile, 29
９）前掲ウェブサイト６
10）マルタ大学ウェブサイト
https://www.jc.um.edu.mt/prospectivestudents/study（2018年８月31日入手）
11）Ministry of Education and Employment, 2014, National Curriculum Framework" Home Economics within the Health and physical Education（NCF）2014"
12）マルタ共和国学習・評価プログラム局前期中等教育新カリキュラムウェブサイト
https://curriculum.gov.mt/en/syllabi_as_from_sept_2018/Pages/year_07_new_syllabi_2018_19.aspx （2018年９月15日入手）
13）家庭科セミナーセンターウェブサイト
http://www.hesc.org.mt/
（2018年８月31日入手）